

第3回 大和高田市地域公共交通活性化協議会 会議録

日時	平成24年03月28日(水) 午後2時～午後3時45分
開催場所	大和高田市役所 4階合同委員会室
出席者	<p>松田秀雄 大和高田市副市長</p> <p>出席 増田委員、日下委員、布川委員、西本委員、岩橋委員、刀谷委員代理、前田委員、吉田委員代理、佃委員、小泉委員、千葉委員代理、竹林委員代理、中澤委員、生田委員代理、伊東委員</p>
会議概要	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶 松田秀雄 大和高田市副市長</p> <p>3. 議事</p> <p>大和高田市運行効率化計画案について</p> <p>議題1：きぼう号の運行効率化計画と利用促進施策</p> <p>議題2：事業評価の指標</p> <p>&gt;事務局より配布資料について 資料説明</p> <p>運行効率化計画案について意見や質問はあるか。</p> <p>&lt;発言者1(奈良県土木部道路交通環境課 質問3つ)&gt;</p> <p>①ルート案1について、乗換えが必要となるが、乗り続けていけば目的地へ行くことができるのではないかと。もう一度説明願いたい。</p> <p>②南部からさくら荘へ行くには、ルート1と2では乗換えが必要となるが、現実的か。事務局の意見を教えていただきたい。</p> <p>③現在、コミュニティバスと奈良交通の路線バスの連携をどのように考えているのか。</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>①今回の再編に向けた案は、現行のきぼう号の路線を分割することを前提に検討を行っている。</p> <p>ルート1は大きく4つに分割されている。1つ目はさくら荘などのある市北西部と中心市街地を結ぶコース、2つ目は市北東部地域と中心市街地を結ぶコース、3つ目は市南部地域と中心市街地を結ぶコース、4つ目は中心市街地内を周回するコースとなっている。</p> <p>委員のご指摘のようにルート1については、1つのルート走行後、中心市街地部分を走行するため、乗換えをせずに中心部が走行できるような運行形態となっている。したがって、事実上は3つに分割でき</p>

ると考えられる。

②ルート1、ルート2においても乗換えが必要になる場合があるが、さくら荘へ行くことは可能である。南部地域からさくら荘への移動ニーズは多い。また北東部地域からさくら荘への移動要望は見られる。これらに対応できるようにルートを検討する。

③現在の運行は、きぼう号のみの施策として検討を行っている。そのため、奈良交通などの路線バスについては、考慮をしていない。

ただし、市の公共交通全体を考えた計画作りの場合は、ご指摘のように、奈良交通の路線バスと協働して検討を進める必要があると考えられる。平成24年度は計画案の詳細を検討していくスケジュールとしているため、奈良交通の路線バスとの連携は図るように検討する。

#### <発言者2（奈良県土木部道路交通環境課）>

運行再編後の計画案と現行と所要時間が同じ区間が見られるが。

#### <事務局>

運行の方向（向き）や乗換えの状況によっては、時間が変わらない区間がある。

また、資料の中で示した、運行計画案は車両を現行の2台でどのように取り回せば効率的な運行が出来るかを検討したものである。したがって、詳細の計画案や正式なルート案は平成24年度に検討させていただくことで、ご理解をいただきたい。

#### <発言者3（奈良県交通運輸産業労働事務局）>

奈良県下の路線バスの輸送人員は減り続け、各事業者とも赤字額が増加している。今回の運行効率化計画案では、きぼう号の再編のみを考えていると考えられる。現行のバス路線の維持が難しくなると考えられる。コミュニティバスのみ利便性を上げて、路線バスのサービスレベルが低下しては、公共交通全体の整備としては効果が希薄になると考えられる。

資料中で運行経費を399円/kmと設定し運行経費などを算出しているが、その根拠をお示しいただきたい。計画案は現行の運転時間から比較しても長くなっており、運転手の拘束時間も長くなっている、この単価で問題ないだろうか。

#### <事務局>

次年度以降は、路線バスとの連携は図るようにさせていただく。

運行経費399円/kmは、現状の市の委託費と総運行距離から割り戻して算出をしている。そのため、実際の委託費用とは異なる可能性が高い。今回の資料の中で、検討案のルート長が変化した

運行経費やルートは次年度に調整を行っていくものとさせていただく。

**<発言者4（奈良県土木部まちづくり推進局 意見3つ）>**

- ① 中心市街地の活性化も図るうえで、コミバスと路線バスを合わせた形での検討が必要と考えられる。机上の計算で検討しているもあるので、利用者の観点による資料づくりが必要と考えられる。
- ② 運行再編後のルートについて、中心市街地のバスでの利便性を高めるために本数を増やすことは理解した。例えば10分位に数台のバスが通過するのではなく、20分おき30分おきなど、等間隔に運行しないと、利用者としては使いにくいものになると考えられる。運行間隔という面も含めて検討が必要と考えられる。
- ③ 中心市街地内で、コミュニティバスと奈良交通の路線バスでは、重複する区間が見られるが、両者の間に運賃の差も見受けられる。利用者の利便性の向上のため、こうした運賃形態の変更などの設定が必要と考えられる。

**<事務局>**

貴重なご意見を賜った。委員の指摘に対して今は答えを持ち合わせていないが、平成24年度の検討の中には当然含め、さまざまな観点により検討を進めさせていただく。

**<発言者5（奈良県土木部まちづくり推進局）>**

各ルート案から選ぶというよりは、意見を受けて案が改良されると考えてよいか。

**<事務局>**

今回の運行効率化計画案は、資料の内容が多いため、事前に配布すべきだった。今回は3案について検討していくことを了承していただき、その中で計画案を土台に検討していく。

**<事務局>**

平成23年度の事業は奈良県の補助制度“安心して暮せる地域公共交通確保事業（奈良県土木部道路・交通環境課）”を活用させていただいた。今回の協議会にお示しさせていただいた本日の資料「大和高田市運行効率化計画」について、本日協議会の承認を得る必要がある。協議会で指摘を受けた箇所もあるが、事務局で責任を持って対応させていただくので、ご承認をいただけるか。

**<全委員>**

異議なしとの声

**<事務局>**

ありがとうございます。対応をさせていただく。

**<事務局>**

長時間にわたり、ありがとうございました。

次回（第4回地域公共交通活性化協議会）は、5月または6月頃を予定している。

以上で、第3回大和高田市地域公共交通活性化協議会を終了させていただく。

ご協力ありがとうございました。

以 上